

公立高全日制1・09倍

県教育局は22日、県内公立高校入試の最終志願状況を発表した。全日制の志願者数は3万9305人で、倍率は1・09倍(前年同期1・12倍)で、現行の試験制度



卵の殻を原料に配合したプラスチック製品「PLASHELL」や紙製品「Camishi」を開発しています。コスト削減にとらわれず、環境に優しい商品を追求しています。

都内の専門学校で経営や経理を学びました。父が経営する食品会社を手伝った後、1996年から飲食店向けの冷凍デザートなどを製造・販売する会社を経營していました。2012年頃、出張で訪れた欧米のスーパーで、紙の容器に入った商品が多いことに気づきました。そのとき、日本も二酸化炭素を削減するために積極的に行

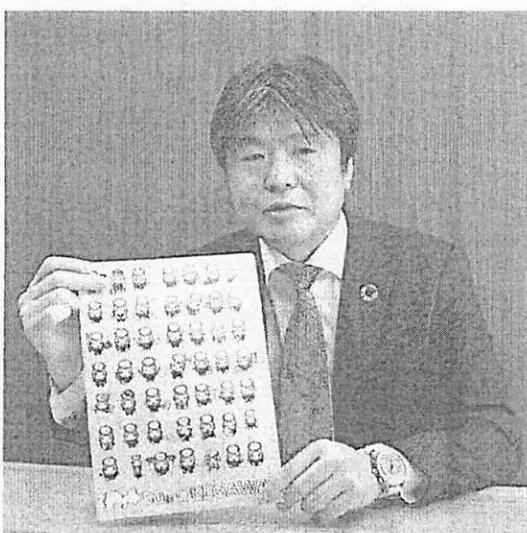
卵殻活用商品で環境守る

SAMURAI TRADING(桶川市) 桜井 裕也 社長 51

動すべきではないかと危機感を強めました。

そこで、自社商品の製造過程で生まれる卵の殻に着目しました。既に20%ほどは肥料として販売していましたが、17年に当社を設立し、卵殻を活用した商品開発を本格的に始めました。

そこで、自社商品の製造過程で生まれる卵の殻に着目しました。既に20%ほどは肥料として販売していましたが、17年に当社を設立し、卵殻を活用した商品開発を本格的に始めました。卵殻を数%混ぜることから始まりました。卵殻が多いほど、削減するためには積極的に行



「環境問題には一刻の猶予もない」と訴え、「PLASHELL」で作ったファイルを紹介する桜井社長(桶川市で)

など100種類ほどの商品を開発しています。今年は飲食店チェーンを全国展開する企業など、新たに5社が取引先に加わります。事業は拡大を続けており、環境問題に対する企業の意識の高まりを感じています。

脱プラスチックとは、紙製品に置き換えるべきでは決してありません。紙の原料の木は、二酸化炭素を吸収してくれる大切な存在です。卵殻を原料に配合してパルプの割合を低減する「Camishi」の開発にも着手し、昨年2月に発売しました。

コロナ禍で営業活動は難航しましたが、県が革新的な技術開発に挑戦する企業などを表彰する「渋沢栄一ビジネス大賞」で大賞に選ばれましたことをきっかけで、夫が必要で、研究は今も続けています。

「PLASHELL」は

完成品にまだ横様が入ってしまいましたが、食品会社の経営で学んだ、牛乳の脂肪球を碎いて大きさをそろえる技術を応用し、卵殻を均一に混ぜるようにして苦労を乗り越えました。卵殻の割合を増やすには殻を

もうと細かくするなどの工夫が必要で、研究は今も続けています。

クリアファイルやハンガーを中心で商品を採用し

(成田沙季)

国連の「持続可能な開発目標(SDGs)」実現のために、二酸化炭素の排出削減は必須です。今後、SDGsに協力しない企業は投資も集まらず、生き残れないでしょう。

コロナ禍が収束した後は、企業の環境保全への取り組みが一気に加速すると思います。需要が増えれば、無理なくコストダウンもできる。そうした好循環に期待しています。

県内新規

学科別の平均倍率は、普通科が1・13倍(前年同期比0・02倍減)、専門学科は0・98倍(同0・07倍減)、総合学科が0・95倍(同0・1倍減)といずれも減少が目立つた。担当者は倍率の低下に

更で最も志願者が増えたの

一方、定時制の志願者数は、16日の発表より26人増の1085人となり、平均倍率は0・52倍(前年同期0・53倍)となつた。入試は学力試験が26日に

行われ、一部の学校で面接を行なう。追試験を同3日に行なう。合格発表は同8日。新型コロナウイルスに感染した生徒を救済するための特例

は川越市(普通科)で41人増。最も減つたのは川越市(同33人減)。

学者の募集人員で、内数。倍率は、転編入学者募集人員で算出している。○は市立。